



“家族のつどい”

ふれあいデイ委員長 高田 靖子

近年、少子高齢化問題が重視されています。2025年では、約700万人（高齢者の約5人に1人）が認知症になっていると言われていたのですが、それ以上のペースで増加しているとのこと。認知症の人が、認知症と共に、よりよく生きていくことができるような環境整備が必要だと国は言っています。そこで、新オレンジプランが厚生省により立てられ、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。」を唱えています。当院は、少しでも地域に貢献できる活動を行うため、「認知症疾患医療センター」となり、大分県西部地域のため頑張っています。

日田市では、「オレンジカフェ ひた」実行委員会の運営により、月に1回「オレンジカフェ」が開催されています。これは、認知症の方々及びご家族の社会的な孤立を防ぐことを目的とし、交流の場を設けることによって、普段抱えている不安や心痛を気軽に話したり、また他の方の話聞いて共感したりして気分転換を図る取り組みです。

また、当院でも年に1回、「家族のつどい」として入院患者さんのご家族を対象に、認知症の勉強会・ご家族同士の懇親会を行っています。懇親会では、問題行動の多い認知症の方を介護されているご家族からは、見守りや介護に要する時間の増大から、仕事を辞めて対応しなければならなくなったという経験談、その他入院するまでの様々なご苦労を聞かせてもらったりしています。私たちスタッフは、その声をもとに、ご家族の心情をより理解して、今後のより良いケアに結び付けていく責任を感じます。ご家族の方も口に出したり、聞いたりすることで、どこも大変なんだと共感し、笑顔で帰っていく姿を目にします。そうすると、私たちも会を催して良かったという気持ちになります。「オレンジカフェ」にしても同じようなことが言えるのではないのでしょうか。

これらの取り組みを、多くの方々に周知してもらい、どんどん利用していただくことは、最初に述べた社会を実現するため礎となっていくはずです。

また、若者たちも他人ごとではなくなります。これからの認知症患者を背負っていかねばなりません。若い人に少しでも迷惑を掛けないよう、私たち病院スタッフも手助けできていければ・・・と思っています。認知症になっても、「この日田なら大丈夫！。みんなで支えますよ。」と言えよう頑張っていけます。不安なこと、ご心配なことがあればいつでもご相談に来てください。病院スタッフ全員でお支えます。



大分県「認知症地域ネットワーク事業」での活動について

おおいた西部地域認知症ネットワーク研究会 事務局 羽野 伸司

大分認知症カンファレンスは、2014年度より大分県の委託で「認知症地域ネットワーク事業」に取り組み、各圏域で活動任意団体を設けて連携を取りながら活動を行っています。西部圏域（日田・玖珠・九重）は、「おおいた西部地域認知症ネットワーク研究会」という活動団体を設立して当院に事務局を置き、当院共催のもとで活動しています。主に、認知症の人と、その方に関わる方々が余儀なく抱える諸問題について、医師や薬剤師、介護支援専門員（ケアマネージャー）、市内の医療機関職員や介護福祉施設職員など様々な職種の方々のほとんどが仕事終わりに、当院に集まり、解決の糸口を見出す検討会を行っています。依頼があれば、市内医療介護福祉事業所にお伺いして、検討会を行っています。今回、県委託事業の総括として、2月28日日曜日に、大分市のコンパルホールにて多職種分科会が開催され、参加者全総数は350名を超えていました。

当日はOBS大分放送の取材もあり、夕方のニュースには放送されていたとの事でしたので、ご存じの方もいらっしゃるかと思います。当院院長には、初期介入・困難事例における分科会の座長を務めていただきましたが、医療介護福祉分野の職員だけでなく、市民の方々多くの参加者がいました。まだ県下において認知症のネットワークが存在しない地域での構築、各圏域各団体における活動内容の格差、社会的偏見をなくす啓発が必要など、今後の課題とされています。



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス

<http://www.uenokoen-hospital.jp/>

E-mail

uenokoen-hp@giga.ocn.ne.jp

大分認知症カンファレンス 西部圏域活動団体：おおいた西部地域認知症ネットワーク研究会

顧問 上野公園病院院長 長野浩志・居宅サービス光洋 代表取締役 志谷洋子

代表 日田市東部地域包括支援センター松元悦子 副代表 日田市西部地域包括支援センター中原陽子

事務局 居宅介護支援センターうえの 高寫夏津枝 医療法人百花会上野公園病院 羽野伸司

学習療法について

臨床心理士 島田 麻衣

東2病棟で行っている学習療法をご紹介します。学習療法は東北大学教授の川島隆太先生が提唱された非薬物療法です。「音読と計算を中心とする教材を用いた学習を学習者と学習を支援する方がコミュニケーションをとりながら行う事により、学習者の認知機能やコミュニケーション機能、身辺自立機能などの前頭前野機能の維持・改善をはかるもの」と定義されています。川島先生の研究チームは、MRIを用いて過去10年にわたり、数百の脳機能の研究から脳を効率的に活性化する方法を発見しました。その結果、簡単な計算をしている時や、本を音読している時に、左右の前頭前野を含めた大脳全体が活性化していることがわかったそうです。実際に研究対象になった患者さんの中には、寝たきり状態から歩けるまでに回復した方もいるそうです。

もちろん科学的に実証をされていても、学習療法を含め非薬物療法は不確定要素も多く、効果についても個人差が大きくなります。しかし学習療法をすることによって、患者さんと介助者がコミュニケーションを取り、その人の新たな一面を知ることができたり、問題に正解することで、患者さんが無くしてしまった自信を取り戻したりするきっかけになることもあると思います。それだけでも十分意義があるのではないかと考えています。

壁破

作業療法士 桑鶴 誠志



今回は、以前紹介した松岡修造さんの名言をご紹介します。

「次に叩く一回で、その壁は破れるかもしれない。」

本気で取り組んでも、壁を破れない時ってあるよね。「100回叩けば、壁は破れる」と言われれば、頑張ることができるけれど、回数が分からなければ、途中で諦めたくなる。次に叩く一回で、壁は破れるかもしれないのに。壁を破れるかどうかは、自分を信じられるかどうかにかかっている。だから君も自分を信じてもう少しだけ頑張ってみないか。

と松岡修造さんは言われています。私は趣味でランニングをやっています。トレーニングの際自分の心が折れそうになったり、怠けそうになったときにこの言葉を思い浮かべ自分の壁を破くべく取り組んでいます。時々叩く拳の方が破れそうになることもありますが・・・

しかし！自分が取り組んでいることに対して、先が分からなくて不安になっても自分を信じて挑戦していくことができたらいいなと思っています。

ちなみに3/13(日)に日田ひな祭りマラソンに挑戦してきます。病院職員も数名参加します。是非、お見かけしたらご声援を宜しくお願いします！自分の限界を超えられるよう壁を破ってきます。